

なんNan?!旅行記

東北

レンタカーの

旅



なんNan?!



「思い立ったが吉日」なんて言葉があるが、まさに旅に出る動機なんて得てしてこんなものであって、「あ、ここ行きたいな」とか、「あ、どっか出かけたな」とかとか、明確なスケジュール、予算はなくとも、とりあえず、行ってみる。旅行ではなく、小さな旅。

そんな時にうってつけの移動手段が、レンタカーである。

切符の手配もいらないし、乗継の時間も調べない。ただクルマを借りて、深夜の高速をひた走る。夜が明ける頃には、もうそこは目的地だ。

そんな弾丸レンタカーの旅を、私達はいくつも行った。

現地でなにをやるか、大体のあたりはつけるけど、基本出たところ勝負。限られた期間で、いかに楽しむか。有名観光地をその場で調べて、回る。効率は下がるかもしれないが、クルマならではの小回りを活かして、精一杯楽しむ。

道の駅一つでも、大きな思い出になるのは、レンタカーの旅のいい所ではないか。

そんな、レンタカーの旅の話を、しようと思う。

今回は、我々にしては珍しく長丁場。現地二泊の東北ぐるりツアーである。

テーマは...「秘湯」

かず(リーダー)

なんNan?!のリーダー。旅の首謀者は全部この人。
47都道府県と10ヶ国くらい制覇している。
運転大好き。長距離ドライブも厭わないので、この形式の旅において非常に重宝しているのだが、山道に入るとテンションあがるのが玉に瑕。



社長

社長。
賑やか
し担当。



尋常じゃないまでにトイレが近く、SAや道の駅での休憩の旅に15分ほど個室に籠る。基本的に彼のトイレのバイオリズムに合わせて旅程を取る。ちなみに彼がトイレに籠る一連の行為を総称して「極」と呼ばれる。

〇森

イケメン担当。免許は持っていないのでお菓子の事前準備が彼の役目。
普段旅などには縁がなかったようだがリーダーの熱心な勧誘に心打たれ、サークルに参加。
見事に旅の魅力に取り付かれた模様。
「〇森はワシが育てた」(かず談)



ながたに

運転とか、ブログの作成とか、担当してます。写真を撮る人。



なんNan?!のサイトです。様々な旅行記、写真などが見れます！

※この本は、上記サイトにて公開中の旅行記の内容をまとめ、加筆修正したものです。

「東北の秘湯を巡ろう」と銘打った今回の旅。夜の22時に東京、多摩市を出発して、渋滞に巻き込まれつつ最初にたどり着いたのは、岩手県の山奥、県道122号線を上りきった夏油温泉です。

「秘湯」という言葉の定義は色々あるでしょうが、ここは第一に交通の便が悪い。北上市街から、ひたすら山道を登ること一時間。一応路線バスも通ってはいるにはいるのだが、道はつづら折れで、ひどく狭い。もちろん雪が降ってしまえばひとたび通行止めになるので、今回我々が向かった元湯夏油は、冬季の間は休業するそうである。知名度でいえば「秘められている」感じもないのだが、ひとたび足を運べば、周りの景色も相まって、十分に「秘湯」の感覚を得られるのではないか。



夏油元湯にはいくつかの温泉が存在する。内湯はまだ営業時間外だったので、我々は4つある露天風呂を目指すことに。

本館と別にある「自炊棟」(素泊まりのようなもの?)を中をすると抜けて、敷地内を5分ほどあるけば、溪流沿いに降りる道にあたります。途中、宿泊客なのか従業員なのか、どちらともとれる風貌の老人に声をかけられました。「この一番の推しは"大湯"だから、そこに入らなきゃダメだ」我々の一番の目的は、川と同じレベルに湯が存在する、いかにも秘湯の雰囲気満々の「疝気の湯」でありました。しかし勿論入れる以上は色んな種類の湯につかりたい。しかしその老人の話聞くことには、その大湯、なんと湯温が**45度**を超える高温。確かにどのガイドブックを見ても、「高温注意」と書いてあった気がします。ダチョウ倶楽部じゃないんだから…。正直我々は最初、その大湯にはあまり入る気はありませんでした。





左手に見えるのは川です。掘っ立て小屋のような感じで、脱衣所があります。



こちらが大湯。川との間には柵も設けられており、若干川よりも高い位置にあるので、見晴らしのいい露天風呂といった感じ。お湯も無色透明で、見た目ではこれといって特別感はありません。まあかなり周りの環境は開放的なので、なかなか他では味わえるものでもないですが、疝気の湯に気を取られている我々には、いささか物足りなさが生まれているのでした。

で、このお湯が熱い。

どのくらい熱いかといえば、身体の芯が冷えるほど。まず浸かった瞬間に飛び出します。足湯さえできないのです。それでもなんとか足だけでも中に沈めると、みるみるうちに肌が赤くなります。そして、意を決して身体を沈めます。どうしようもない痒さ、ビリビリ感が身体を襲います。朝も早かったので、周りに人がいないのをいいことにおもわず「あー！！」と叫ばずにはいられませんでした。

人間の適応力というのはすばらしいもので、ひとたびそのビリビリが収まってしまえば、意外と反射で飛び出してしまうようなことはありません。さすがに。しかしここで問題が。

中で、身動きがとれないのです。

理由はわかりませんが、とにかく中で動いたら、ダメ。その瞬間に、入った瞬間に感じたあの

ビリビリとした痛みが全身を襲います。

しかし、泰然と浸かっている分には、いかにも身体中に効能が染みわたるような、錯覚を得られます。錯覚かどうかはわかりませんが、身体の芯からジンジンと痺れがあがってきます。

「ああ、これが湯治ってやつか！」私は一人、叫びます。

さて、さすがに1分も浸かっていると、身体が限界を迎えます。この大湯、意外と水深があり、下に座ってしまうと顔面を湯につけざるをえないくらいには深く、それは一大事。そのため、浮力を借りながらとはいえ、中腰のような状態でとどまっていざるをえません。

湯からあがるにはどうするか？それは動くしかありません。

しかし前述の通り、この中で身動き一つとろうものなら、全身をビリビリと痺れが襲うことは容易に想像ができ、また人間、目の前に苦痛が待っているとわかればなかなかそこに飛び込む勇氣はない。ここで後悔するのです。なぜ私は大湯に浸かってしまったのだろうか、と。

しかしいつまでも浸かっているのは、それこそ茹蛸。しっかりとボイルされてしまいます。

「あ————！！！」

私は、また声になりまくる叫びをあげて、逃げるように湯から飛び出ます。その際におそらく一番細い部位であろう、足首あたりに激痛が。湯からあがった足首は、もはや火傷一歩手前。いや、実際はそんなことないんでしょうが、それくらいのインパクト。

ただ、本当にいいマッサージは激痛であるように、あがってしばらくすると、身体中からじんわりと毒素が抜けていくような感覚が、味わえます。

この大湯をはじめとして、すべての温泉は一切手を加えていないそうなので、季節、時間によって温度は変わるそう。

この大湯の効能は「きりきず・やけど・慢性皮膚病・虚弱児童・慢性婦人病」と、多岐にわたるのだが、なるほど、目には目を、やけどにはやけどを、といったところなのだろうか。

と、これだけ見ると皆さん、なかなか入りたくなくなってしまうかもしれませんが、この元湯夏油に来たからには、絶対にこの大湯を外してはいけません。基本的には混浴で、一部女性専用の時間帯もあります。

脱衣所は男女別れているし、意外と遊歩道沿いからは見えないので、そんなに野趣溢れる開放感はありません。とにかくその湯が、すごい。

これは、入ってみないとわかりません。

帰りに先ほどの老人に「大湯入ってきましたよ！」と言うと、その老人はほう。といった目でこちらを見てくれました。 「1分浸かったよ」といえば、それだけ入れば十分だ、といわれました。

さて、次回はいよいよ我々の目的である、疝気の湯へと向かいます。



こちらが我々の求めていた「ザ・秘湯」こと『疝気の湯』目の前を川が流れています。川と温泉を隔てるのは、ただ一枚の壁。ちょっとでも川が増水すれば、もう湯浴みなのか川浴みなのかかわからない。まさしく「温泉界のエキサイトシート」とはこの事。肝心の泉質は、硫黄臭の強い黄土色。写真ではそうでもありませんが。ただこちら、直前の大湯とのギャップも少なからずあったとは思いますが、とにかくぬるい。

朝一ということもあり、若干寒いくらい。

まあ元来、湯治というのは温めの湯に長く浸かり、その効能を五臓六腑に染み渡らせることなので、間違っではないかというか、むしろ正しい形なのかもしれませんが、ぬるい。

そうして我々は疝気の湯もそこそこに、残り二つの温泉へ。



こちらが真湯。川の対岸にある囲いがしてあるのが女の湯です。

真湯は作りが大湯に似ており、正統派の露天風呂といった感じ。もちろん湯温も適正です。広さもあって、我々以外に客がいないこともあって、かなりのんびりと癒されることができました。

そして、なんとか靴だけは履いて、全裸に靴というどこの変態プレイかというような格好で対岸に渡ると、女の湯がございます。

こちらは濁った硫黄の湯。ぬめぬめとした感触でした。川を眼前に讚えるロケーションは、疝気の湯にも負けず劣らず。囲いがしてある分距離はありますが、それでも川の流れる音を十分に感じながら入浴ができます。温度はやはりぬるめ。

これでこの時間に営業している露天風呂4つを制覇して、我々は意気揚々とこの夏油元湯を後にします。

内風呂もなかなか種類が豊富なようなので、皆さんもぜひ訪れてみては？

八幡平は霧に包まれ



温泉の次は、自然観光！

という事で、向かうは奥羽山脈北部に位置する「八幡平」
八幡平は日本百名山にも数えられる、屈指の絶景観光地。

なんですが...

ご覧の通り。



ここから雄大な景色を眺められるはずなのですが...



八幡平屈指の大きさを誇る池なのですが・・・



なにやら風景の説明ありますが



一寸先は霧！

まあそれでも頂上に行けば

きっとそれは緑豊かな心洗われる景色が僕らを待っている



ハズでした

えっと…工事中？

百名山の頂上がこれでいいのか？

周りのハイカー達も思わず「えっ？」って感想を漏らしながら歩いておりました。

まあもちろん別に数多くの絶景ポイントはあるわけで(そもそも頂上はあくまで頂上。一番見晴らしがいい所、というわけではない)、ただ今回ばかりはトコトン天気恵まれなかった、と。



まあこれはこれで趣ありました。



ア サシンと化すO森君。

我々のリーダーは、絶対的権力を持つ「晴れ男」としてその名を世界に轟かせているのですが
今回ばかりは天に勝てず…

ぜひぜひリベンジしたい所であります。

こ ことから我々は、再度温泉に向かいます。

八幡平をあとにした我々は、一路田沢湖を目指します。

まあちょっと地図を見ていただければわかるのですが、「目指します」と言ってもそれはそれは田沢湖なんて、かなりの距離がございまして。

その前にひとつ風呂！！

そう、なにを隠そうと今回の旅は「温泉を巡る」旅なのでありまして、それはもう数ある名湯を追い求めて、身体中がふやけてしまうまでこの身を湯船に浸からせなければなりません。



そして辿り着いたのが「後生掛温泉」

八幡平アスピーテラインという道路沿いにありますので、山奥の立地の割に交通の便は良い。そのこともあってか、とにかく人が多い。ここは朝の夏油元湯とは違って、有名な湯治村ですね。

露天、サウナ、内湯に打たせ湯と、一通りの湯がそろっておりますが、特筆すべきは「泥湯」でしょうか。なんかこう、泥です。泥パックに浸かるような。個人的にはあまり好きではなかった←

ただ一度入ることをオススメします。

あとなんか五右衛門風呂みたいなサウナありました。打ち首みたいに並ぶんですw 箱蒸し風呂というらしいですが、こちらも名物のようですね。

「馬で来て下駄で帰る後生掛」なんて謳われているように、非常に効能は高いらしいです。ぜひぜひ皆さん、訪れてみては??

「馬で来て下駄で帰る後生掛」を、車でブーンとあとにして、次に向かうは田沢湖です。

まあいってしまえば湖なんですけどね。この田沢湖は日本で一番水深の深い湖、として有名ですね。つまり、沈んだら終わり…

青々とした湖面に、キラキラと白鳥ボートが浮かんでいる図がよく思い浮かびますが、我々が田沢湖に辿り着いたのは日も暮れようか、という時分。まあそれはそうなるよ。どこでもドアがあれば話は別だけど。「そう、iPhoneならね」とか言ってiPhoneのマップ駆使してみたけど、やっぱりゆうに2時間は車走らせていました。



さて、この田沢湖には「たつこ姫伝説」というのがあるらしくて…詳しくはここでは割愛しますが、たつこ像なるものが立っています。



一応観光名所ということで、たつこ像にあわせてライトアップできるように、照明が設置されています。

夕方の空に、金ピカに光るたつこ像は、なんか…違和感。

やはり湖は、日の高いときに、空の青と周りの緑と、水の青のコントラストを楽しむ場所ですね。

てなわけで、われわれは湖畔近くのお土産やさんに。



きりたんぽを食します！ そして稲庭うどんも購入。

これでこそ秋田です。

さあ、いよいよ本日のお宿に向かうわけですが…

場所は「男鹿半島」

田沢湖から男鹿半島って...

120kmくらい離れてますけど、そのようなことは気にしない。

泊まだけですが、訪れたことに意味がある。僕らは、ずっとそのスタンスです！

男鹿半島の民宿

田沢湖から男鹿半島へ。

結論から言えば、男鹿半島ではなんかでっかいスーパーに寄ったのと、民宿泊まった。だけ。名前も忘れた国道沿いのスーパーでしたが、こういう地元を利用した感覚、旅の素敵なところだと思います。

翌日はすぐに五所川原の方に出る、ということで。

宿泊の為だけに、寄った男鹿半島。

男鹿半島の、意味。まあ観光名所は？と聞かれて即答できない所でもあるんですが。なまはげ、なまはげ、なまはげ。

皆さんごめんなさい。これが僕の限界です。

今度は、明るいうちに訪れたい、男鹿半島。



さて、こちらの民宿ですが、お母さんとってもいい人。

なんだかんだ宿泊費オマケしてくれました。これが民宿のいい所ネ。値切れるネ(違う)
本当に寝るだけ(世にも奇妙を観ていたけども)のお世話になっただけですが、なかなかお部屋も
広かったし、なによりいたる所にねこねこねこ。

結局ねこは最後まで心開いてくれませんでした。まあ美しきものには触れるべからず。綺麗な
薔薇には棘がある。

ねこを眺めているだけで、私は幸せでした。

とりあえず翌朝は、五所川原駅へ向かいます。ここから、屈指の風景路線、五能線沿いを車で走
ります！

二日目、朝

「朝、5時に起きて出発しましょう」

そんな号令が、リーダーからかかったのは田沢湖から車をぶいぶい言わせて、男鹿市内のスーパーで夜の酒盛り用のつまみとかを買い漁っているときでした。

「言ってる事とやってる事が一致しない」とはまさにこのこと、と思うのだけれど、ウチのリーダーはまたやると言ったらガンとしてひかない子。そして何より旅の中で一番嫌う事が「時間の無駄」なのでありまして、仮に今晚わいのわいのと酒盛りをしようとも、翌朝はきっちり5時に叩き起こすという極悪非道な行いなど、まさに朝飯前。対策としてはリーダーその人を闇の底まで酩酊させて仮死状態まで追い込むくらいでありまして、そうと決まればかしこい私はこの夜の酒の摂取量を最低限に控えて、むしろどこの健康少年よろしく「21時に寝る！」と言い張ってさっさと布団にもぐりこんでしまおうとも思いましたが、宿に着いたのがすでに21時を迎えようかという頃合でございましたため、私もなくなりその後の酒宴に参加するのではありません。

さて、翌朝。鶏の一羽でも鳴きそうな雰囲気、湖畔の宿の窓から差し込む一筋の朝日――は残念ながら感じることのできない曇天。むしろ雨。

そんな陰鬱な空模様の中、なぜか我々メンバー4人は揃いも揃って5時に起床。ちゃっちゃと身支度を済ませ、6時前にはしっかりと宿を発つ事に成功したのであります。

これはひとえに前夜のリーダーの一言

「起きないやつは蹴ってでも起こせ。これは戦争だ。遊びではない」という恫喝まがいの一言を真に受けた我々の、いじらしい一面が垣間見えたということに他ならないのであります。



さあ、男鹿半島の宿を発ち、車を2時間程走らせると、本日の午前中の行程である「五能線ドラ

イブ」のスタート地点、五所川原駅に到着します。

残念ながら五能線沿いの立ち寄りスポット等は一切決めていなかったのですが、この五所川原駅にてJRのパンフレット等をあさり、適当な所にめぼしをつけて、車を走らせていくことになりました。

まず、最初の目的は・・・朝御飯。

すると鱒ヶ沢近辺のエリアに、名物の「ヒラメの漬け丼」なるものが存在するらしい。

これは、行かなければならないので、まず我々は鱒ヶ沢駅を目指し、そこから近くのドライブインへ。



店の開店時間よりもちょっと早く着いてしまったので、近くの堤防あたりで大挙して押し寄せていたうみねこの軍団と戯れながら、店があくのを待つことに。



そして、開店一番客として、入店。

4人ともヒラメの漬け丼をチョイス。朝から忙しくさせて申し訳ないと思いつつ、まあここの名物なんだから大目に見てくださいな、という心持で待つこと15分程。



これが、名物。

漬けたれの染みたヒラメと、これまたタレの染みこんだ白飯は、朝の胃袋にも優しいながら、ガツンとその真髓を我々に与えてくれました。

まあ値段は若干お高いですが、訪れた際にはぜひ、ご賞味あれ。

さて、腹を満たした次にすることは、そう観光です。

ということで、お次は千畳敷駅へと向かいます。

寝て一畳、座って半畳。美しいのは千畳敷

お次は千畳敷駅へ。



そもそもこの千畳敷というのは、岩場などが波によって侵食されてできた地形のことを指しておりまして、日本全国津々浦々に、たくさんの『千畳敷』は存在します。

そしてその中のひとつである、青森県のこちらの千畳敷は、日本海の荒波に削られただけあって、ゴツゴツとした岩場が印象的。



岩場の切れ目からざっぱーんと東●の映画よろしく波しぶきが打ち上げられる様などは、一日中

観ていても飽きません。



快晴の中、車はさらに進みます。

馬が轟く訳ではない、轟木駅



こちら、五能線屈指の風景駅こと「轟木駅」

「とどろき」といえば、思い浮かぶ漢字は「等々力」か、または「轟く」といった方かと思うのですが、こちらの駅の漢字は馬が3つで「轟木駅」

これはこの辺の地名でして、その由来は馬が三頭どこどここー！って走る音が轟くから…ではなくて、周りの木々や海が轟く音に、馬が三頭あわてて逃げ出したから轟木なんですってね。いやぁ、実に面白い。

こちらはれっきとしたローカル線の駅なので、もちろん滞在中に列車など来るわけもなく(一日10本満たないですしね。)、目の前に広がるザザーンという日本海の風景を眺めながら、ただただまったりしていたのであります。

こちらの風景美のエピソードとしては、青春18きっぷのポスターに起用されるほど。また「男はつらいよ」のロケ地としても有名だそうですよ。

黄金色の温泉



さて、麿木駅をあとにした我々は、今回のお題目でもあります「温泉巡り」へと戻ります。狙うは「不老不死温泉」

こちらの露天風呂は、なにを隠そう「日本海フロント」

日本海の荒波が、手に届くかという所に露天風呂が位置しています。

そして湯は黄金色に輝く。

まさに不老不死の力を手に入れられるかのような、温泉なのです。

まず館内に入って、内湯で身体を洗い、いったん服を着てから外にでて露天へ向かう。

想像をはるかに超える開放感。目の前に広がる青い空と青い海。そして白い波のコントラストを味わいながら、黄金色の温泉に浸かっていると、自分はいつまでも生きられる。そんな気が、確かにします。

秘湯、とはまた違いますが、雄大な雰囲気存分に楽しめるこの温泉。オススメですよ。

さて、いよいよこの旅のハイライト「白神山地」へと足を踏み入れます。

世界遺産だよ、白神山地！

白神山地・・・

青森県の南西部から秋田県北西部にかけて広がっている標高1,000m級の山地（山岳地帯）で、屋久島とならんで1993年（平成5）12月、日本で初めてのユネスコ世界遺産（自然遺産）に登録された。

「人の影響をほとんど受けていない原生的なブナ天然林が世界最大級の規模で分布」している原生林である。

実に、魅力的。世界遺産という響きが、我々を駆り立てる。

と、いう訳で、温泉あがってポカポカした我々は、その勢いで白神山地へと車を入れるのでありました。

因みに本日のお宿は十和田湖畔。どう頑張っても2～3時間はかかる。

時、すでに正午を回った頃。

本日のお宿は実はなかなか豪勢なところで、夕食も頼んでいるので、19時過ぎには遅くとも到着しなければならない。

我々のイメージでは、山地の中にあるビジターセンターみたいな所まで車で向かい、そこからてくてこ歩いて2時間弱くらいで、世界遺産を身体中で堪能する、という行程を思い描いていました。

ただ、現実は甘くありませんでした。

足を踏み入れた瞬間に、この風景。



車で山に入ること数分



こんな道が

ダートや。これ、ダートや(笑)

走る度にガツンガツンと石が車を叩く音が聞こえる。

果たして無事にレンタカーを返却できるのか。それすらも怪しまれるこの道。

当然スピードも20km/h程度しか出ず、時間だけが過ぎていくが、一向にビジターセンターらしきものは見えてきません。それどころか舗装された道がこない。

走らせること2時間強。やっと舗装された道に出会います。

ちょっと車を停めて、ここに来たからには観ておきたいスポットへ。



マザーツリー。母なる木とでも言うのでしょうか。イメージしているほど存在感を放っているわけではないですが、それでもこの大きさはかなりの歴史を感じます。

そんなこんなでビジターセンターらしき所に到着した時には、すでに十和田湖の宿に着くのがギリギリの時間。

ゆったり大自然の中を歩くプランは、こうして崩れ去ったのでした。

それでもあきらめ切れないリーダー。晩飯あるにもかかわらず「宿には遅れていけばいい！」と譲りません。

しかし、今まで車で来た道を思うと、ここから歩いて滝だのなんだの見に行っていたらそれこそ陽が暮れてしまってビバ遭難。

我々は、戦略的撤退と称し、白神山地をあとにしたのであります。

さて、十和田湖に向かう途中、弘前の駅前を通ります。

そういえば今回、秘湯めぐりなんて大義名分でやっているものだから、このような市街地にほと

んど縁がない。

自然、空、海、山……そのようなスポットばかりをめぐっていました。

それならば、ということでちょっとは観光地っぽい所も観光したくなりまして…
弘前城に、寄り道です。



リーダーと社長は、一回弘前城に来たことがあるらしく、ぜひ一度観るべきだ、と強く推してきました。

私としてはこれ以上時間がおしてしまうことの方が心配だったのですが、せっかく青森まで来たんだもん。一応観ておかないとね、ということで向かうことに。

さて、そんなこんなで一時間ほどおくれて、本日のお宿へ。



十和田湖、わんこ蕎麦、そして高速

最終日は、宿もいいので朝はゆっくり。

朝に早起きして十和田湖畔を散歩しよう、という案もあったけど、せっかくなら朝風呂とかゆっくり浸かりたいじゃないですか。

確かにこの日のうちに東京に戻らなければならない(しかも車!)という時間的制約があるとはいえ、それならば観光地減らしてでも、心にゆとりを持とうじゃないの。それが年をとった、ということなのかなあ。



さて、宿を出てまずは十和田湖に。

初日に田沢湖を観ておりますが、その時は夕方も夕方。

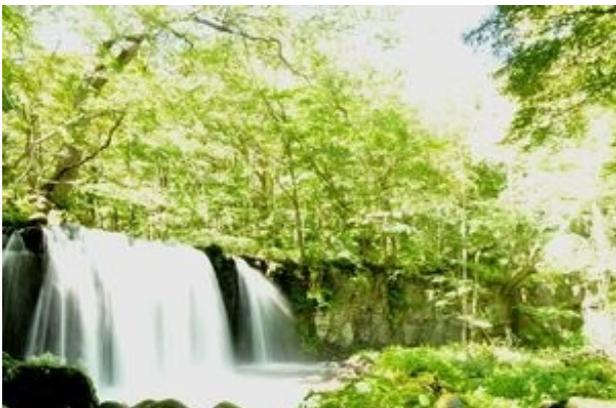
しかもこの日は天気がいいとあって、散策したりアイス食べたり記念写真撮ったり。色々楽しみました。







で、続いてはこの旅最後の観光地「奥入瀬溪流」
全長約14kmの溪流で、ポイントポイントに滝があったり滝があったり色々あったりする場所です
。



並行して道路が続いているので、車で走りながらその場その場で停車して降りて観光、というスタイル。

ツアーバスやらハイキングやら、多くの観光客の皆様で賑わっておりました。

そして、観光も終え、いよいよ帰路に。

途中で寄り道して、盛岡でわんこ蕎麦を食べよう、という話についておりました。

ので盛岡市内へ向かいます。

思えばこの旅、弘前城以外はほとんど自然景観の中を突き進んでいたもので、こうして建物のある中を走るのが、すごい久々な気がします。そんなことはないのだけれども。

途中、社長が便意を催す&風邪薬を買いたいと駄々をこねて、イオンモールへ寄ることに。まさかこの旅でショッピングセンターに入ることになるろうとは。実は初めてじゃない、こういう商業施設行くのって。

で、そこで社長はあろうことか漫画を買ってくる始末。

これには時間も取られた上に、旅の興も削がれ、リーダー大激怒。

まあ日程的にだいぶ辛い時期には入っていましたので、それは致し方ないことなのかもしれません。

さて、盛岡駅前のわんこそば屋。

有名店の「東家」さんへ。



由緒正しきわんこそば。ちゃんと人が「じゃーんじゃん♪」という掛け声とともに付いてくれるのは、ここを含めても実は店舗数は少ないそう。

効率化の波？人件費？ 個人で勝手に食べて、棒で数を数えるんだそう。

さて、男4人でわんこそばに挑む。



当然優勝候補は社長。対抗馬にリーダー、大穴で〇森、という図式だったのですが。

まさかの優勝、私(笑)

129杯頂きました。

しばらくそばはいらない。



そんなこんなで盛岡を出る頃には17時。
東京に22時に着くためには、あと5時間。

え、帰れるの？

答えは、NOだ。

結局いつもどおり最後は推してしまうのがわれわれ流。

しかしリーダーはそれでも時間内到着にこだわる。

「できるできないじゃない！ 努力することに意味があるんスよ！」

言っていることは至極もっともでカッコいいのですが、これは車の運転であり高速道路。
安全第一をお願いします。

さて、なんNan?!の旅行の中でも最長の2泊3日の旅。
色々とありましたが、やはり終わればまた、次の旅に行きたくなるもの。

こうして我々は、またレンタカーで旅立ちます。夜に出て、朝になればそう、また新たな世界が待っています。

おわりに

なんNanのメンバーで東北をレンタカーでまわったこの旅は、もう4年ほど前になります。

今思い返しても、相当無茶苦茶なスケジュールだったと思います。

基本的には「皆さんにもオススメできるような」旅をしていきたいとは思っていたのですが、共感はしていただいても、なかなかオススメはできない旅のスタイルではあります。

この旅をさかいに、大人数で旅行に行くことが減ってしまいました。

なかなかいけない距離感の土地であること、また上記の理由もあいまって、個人的に思い出深い旅でありました。

やはり、気の合う仲間と、車で、ワイワイと
それだけでも、楽しいものです。

なかなか時間が許さなくなってきましたが

読者の皆様もどうか

旅したい！

この心だけは忘れずに、日々を頑張ってもらえれば幸いです。

2014年10月 ながたに

なんNan?!旅行記～東北レンタカー篇～

<http://p.booklog.jp/book/69596>

著者：ながたに

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/axess-nagatani/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/69596>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/69596>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ